

# 下北原発地点海域温排水等影響調査

## (要約)

早川 豊・植木 竜夫<sup>\*</sup>・青山 宝蔵・五十嵐照明

### I 潮間帯生物調査

#### 調査方法

- 1) 調査年月日：昭和52年9月13日～14日、昭和53年3月26日の2回
- 2) 調査地点：下北郡東通村白糖前浜から小野田沢までの間11kmの潮間帯について13地点
- 3) 採集方法：干潮時、砂浜地帯では方形鉄枠を砂面に打ち込みその内側の砂を採集し、篩で篩分けした。岩礁地帯では写真、肉眼観察し、枠取り法。採集物はすべてホルマリン固定して持ち帰った。

#### 調査結果

- 1) 砂浜地帯では、2回の調査により約8種の動物が得られ、そのうちシキシマフクロアミとヒメスナホリムシが卓越し、シキシマフクロアミは汀線、ヒメスナホリムシは中潮帯を中心に広く分布し、高潮帯ではハマトビムシ類、ハマダンゴムシと棲み分けがみられた。
- 2) 岩礁地帯では多種の生物が分布し、通常ウミトラノオ、フジマツモ、石灰藻類、タマキビ類、フジツボ類、カサガイ類、イガイ類等がみられ、冬期にはフノリ、マツモ、イワノリ等の有用海藻がみられ、更に海藻類、イガイ類足糸周辺には小型腹足類、小型甲殻類が多く分布していた。

### II 底生生物調査

#### 調査方法

- 1) 調査年月日：昭和52年10月27日～28日
- 2) 調査地点：潮間帯調査各地点より距岸500m、1000m、1500mの計39地点
- 3) 採集方法：潜水により、表在性底生生物は写真、肉眼観察、枠取り方法、埋在性底生生物はチリトリ型採泥器にネットをかぶせ定量採集し、採集物はすべてホルマリン固定して持ち帰った。
- 4) 種の同定と計数：多毛類の同定と計数は国立科学博物館の今島実氏に依頼した。

#### 調査結果

- 1) 当調査海域は複雑な海底地形をなし、表在性底生生物は軟盤～岩盤に多く、ここでは水深約10mを中心にコンブの植生がみられ、エゾアワビ、キタムラサキウニが分布し、沖側ではマボヤもみられた。
- 2) 埋在性底生生物は182種以上で、約半数の88種前後が多毛類であった。種によりかなり特徴的な分布を示し、水深約20m以浅の貝殻片や粗砂を含んだ地点にはキサゴ、水深約30m以深の泥分の多い地点では*Pseudosabellides littoralis*、*Pseudophydora flava orientalis* 等特定の多毛類が極めて卓越していた。

※ 青森県鯉ヶ沢地方水産業改良普及所

調査の詳細は「下北原発地点海域温排水等影響調査結果報告書（昭和52年度）」参照